



平成23年4月15日(金)
利根川水系渇水対策連絡協議会
(事務局：関東地方整備局)

記者発表資料

平成23年度
第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会
(春季定例会)の開催結果について

利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会(春季定例会)開催される
今後の対策等について確認

- 開催状況 日時：平成23年4月14日(木) 13:30~14:30
場所：さいたま新都心合同庁舎2号館 5階 共用中会議室503
協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構
協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。
- 現状と今後の見通し(詳細は、別添概要書参照)
 - ・ダムの貯水状況 利根川上流8ダムでは平年を下回る貯水量(平年比73%)
鬼怒川上流3ダムでは平年を下回る貯水量(平年比97%)
 - ・積雪の状況 奈良俣ダム地点の積雪深は、平年を上回る103cm
(平年比187%)
尾瀬沼地点の積雪深は、平年を上回る211cm
(平年比103%)
 - ・今後の見通し 今後は水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、
利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想定されます。
- 今後の対策(詳細は、別添概要書参照)
 - ・ダム等水資源開発施設については、きめ細かな水運用を行っていく。
 - ・必要に応じて、節水協力の要請と取水制限等の機動的な対応を行っていく。

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ

問い合わせ先

国土交通省	河川部水政課	住所	〒330-9724
関東地方整備局	八子 康幸 (内線) 3515		埼玉県さいたま市中央区新都心2-1
水政調整官	渡邊 猛雄 (内線) 3551		さいたま新都心合同庁舎2号館
水政課長	杉原 郁夫 (内線) 3557	電話(代表)	048-601-3151
建設専門官	河川部河川環境課	(水政課夜間直通)	048-600-1334
河川環境課長	高橋 克和 (内線) 3651	(河川環境課夜間直通)	048-600-1336
建設専門官	吉川 宏治 (内線) 3652		

平成23年度第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会 (春季定例会)の開催結果について(概要)

1. ダムの貯水状況・積雪状況と今後の見通し

首都圏の水ガメである利根川上流8ダムと鬼怒川上流3ダムの4月13日時点の貯水量は、表のとおりであり、利根川上流8ダム、鬼怒川上流3ダムともに平年を下回る状況です。

	貯水量(貯水率)	平年比	備考
利根川上流8ダム (4月13日0時)	2億3,086万 ^m (50%)	73%	平年を下回る (H5~H22平均)
鬼怒川上流3ダム (4月13日0時)	1億5,330万 ^m (85%)	97%	平年を下回る (S61~H22平均)

今冬の利根川上流域の積雪状況は表のとおりです。

	積雪深 (平年比)	累加降雪量	備考
奈良俣ダム地点 (4月13日9時)	103cm (187%)	1,312cm	積雪深は平年を上回る (H4~H22の4月第3半旬末平均)
尾瀬沼地点 (4月13日9時)	211cm (103%)	1,305cm	積雪深は平年を上回る (S30~H22の4月第3半旬末平均値)

平成23年1月から3月までの降水量は表のとおりです。

	累加降水量	平年比	備考
利根川栗橋上流域 (1月から3月)	140mm	約89%	平年を下回る (S24~H22平均)
鬼怒川佐貫上流域 (1月から3月)	144mm	約83%	平年を下回る (S48~H22平均)

利根川上流5ダム(矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、菌原)は、毎年4月から5月にかけて、降雨と融雪水により貯水量を大きく回復する時期となっており、例年では、5月の中旬にほぼ満水となります。

また、今後は水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想定されます。

2. 今後の対策

①今後、本年の利根川上流域の積雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、上流ダム群の貯水量の状況や融雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行ってまいります。

②利根川渇水対策連絡協議会としては、首都圏の水需要にかんがみ、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的な対応を行ってまいります。

※ ダムの貯水量及び貯水率の情報を、電話応答サービスにより、リアルタイムに提供しています。

どうぞご利用下さい。

・利根川上流8ダム	電話番号	027-255-5692
五十里ダム	電話番号	0288-78-0440
・鬼怒川上流3ダム	川治ダム 電話番号	0288-78-0908
	川俣ダム 電話番号	0288-96-0288
・二瀬ダム	電話番号	0494-55-0116

※ ホームページでもダムの情報をお届けしています。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/> (首都圏の水資源情報 他)

利根川水系渇水対策連絡協議会委員

会 長	国土交通省関東地方整備局長
委 員	国土交通省関東地方整備局副局長
"	国土交通省関東地方整備局河川部長
"	経済産業省関東経済産業局地域経済部長
"	農林水産省関東農政局農村計画部長
"	東京都都市整備局都市づくり政策部長
"	" 建設局河川部長
"	" 水道局企画担当部長
"	千葉県総合企画部長
"	" 県土整備部長
"	埼玉県企画財政部長
"	" 県土整備部長
"	茨城県企画部長
"	" 土木部長
"	群馬県企画部長
"	" 県土整備部長
"	栃木県県土整備部長
"	独立行政法人水資源機構理事（管理担当）
"	" 管理事業部長

利根川水系渇水対策連絡協議会幹事

幹事長	国土交通省関東地方整備局河川部広域水管理官
幹 事	国土交通省関東地方整備局河川部河川情報管理官
"	国土交通省関東地方整備局河川部水政課長
"	" " 河川計画課長
"	" " 河川環境課長
"	" " 河川管理課長
"	経済産業省関東経済産業局地域経済部地域経済課産業立地室長
"	農林水産省関東農政局農村計画部農村振興課長
"	国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長
"	" 利根川下流河川事務所長
"	" 江戸川河川事務所長
"	" 霞ヶ浦河川事務所長
"	" 渡良瀬川河川事務所長
"	" 下館河川事務所長
"	" 高崎河川国道事務所長
"	" 利根川ダム統合管理事務所長
"	" 鬼怒川ダム統合管理事務所長
"	" 荒川上流河川事務所長
"	" 京浜河川事務所長
"	東京都都市整備局都市づくり政策部水資源・建設副産物担当課長
"	" 建設局河川部計画課長
"	" 水道局総務部施設計画課長
"	千葉県総合企画部水政課長
"	" 県土整備部河川環境課長
"	埼玉県企画財政部土地水政策課長
"	" 県土整備部水辺再生課長
"	茨城県企画部水・土地計画課長
"	" 土木部河川課長
"	群馬県企画部土地・水対策室長
"	" 県土整備部河川課長
"	栃木県県土整備部砂防水資源課長
"	独立行政法人水資源機構管理事業部管理企画課長
"	" 利根導水総合事業所長

利根川上流ダム群等の現況と今後の対策（案）について



奈良俣ダム(平成23年4月7日撮影)

平成23年4月14日

関東地方整備局

1. 利根川上流ダム群等の現況

1) 利根川水系

(1) 降水量

平成22年の利根川栗橋上流域の降水量は、1月と8月を除き平年を上回る降水量でした。特に2月、3月、4月及び12月は平年値の1.5倍から3倍の降水量となりました。

平成23年は、1月は平年を下回りましたが、1月～3月までの期間降水量は、140mmと平年値(158mm)の約89%程度の降水量となっています。

4月の月降水量は、13日までで4mmとなっています。(図-1、表-1参照)

図-1

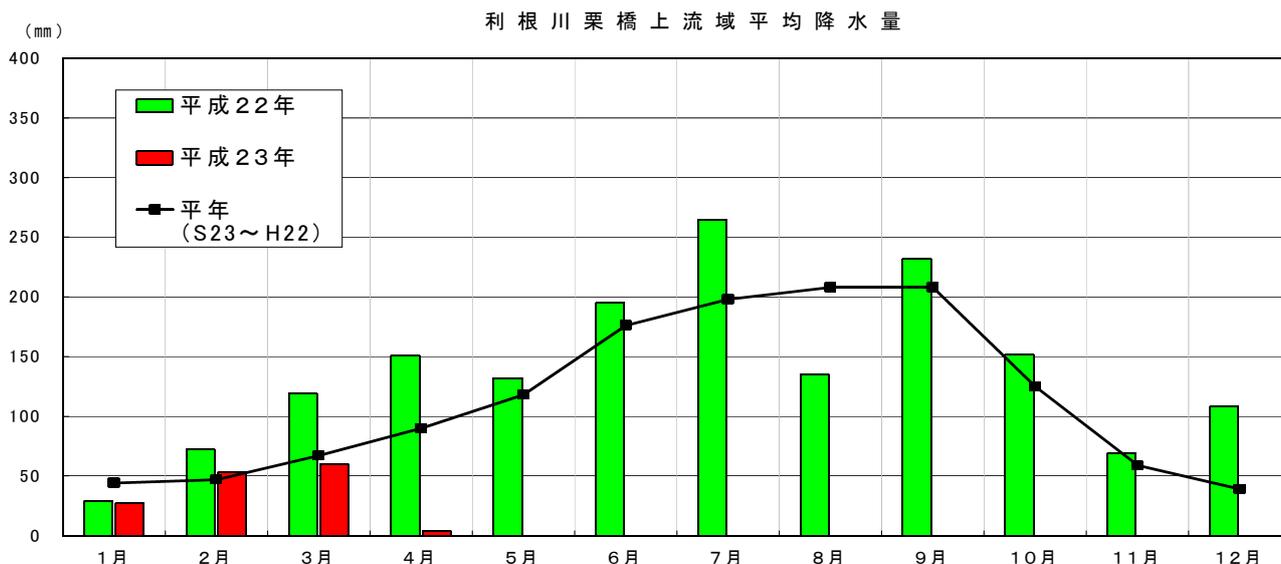


表-1 利根川栗橋上流域平均降水量

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏渇水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	"
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	"
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成22年	29	72	119	151	132	195	265	135	232	152	69	108	1,659	
平年 (S23-H22)	44	47	67	90	118	176	198	208	208	125	59	39	1,379	
平成23年	27	53	60	4									144	
平年比 (%)	61	113	90	4									10	

平成23年4月12日まで

※. 利根川取水制限実施月 (一時緩和含む)

※. 栗橋上流域面積 8,588km²

(2) 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪状況

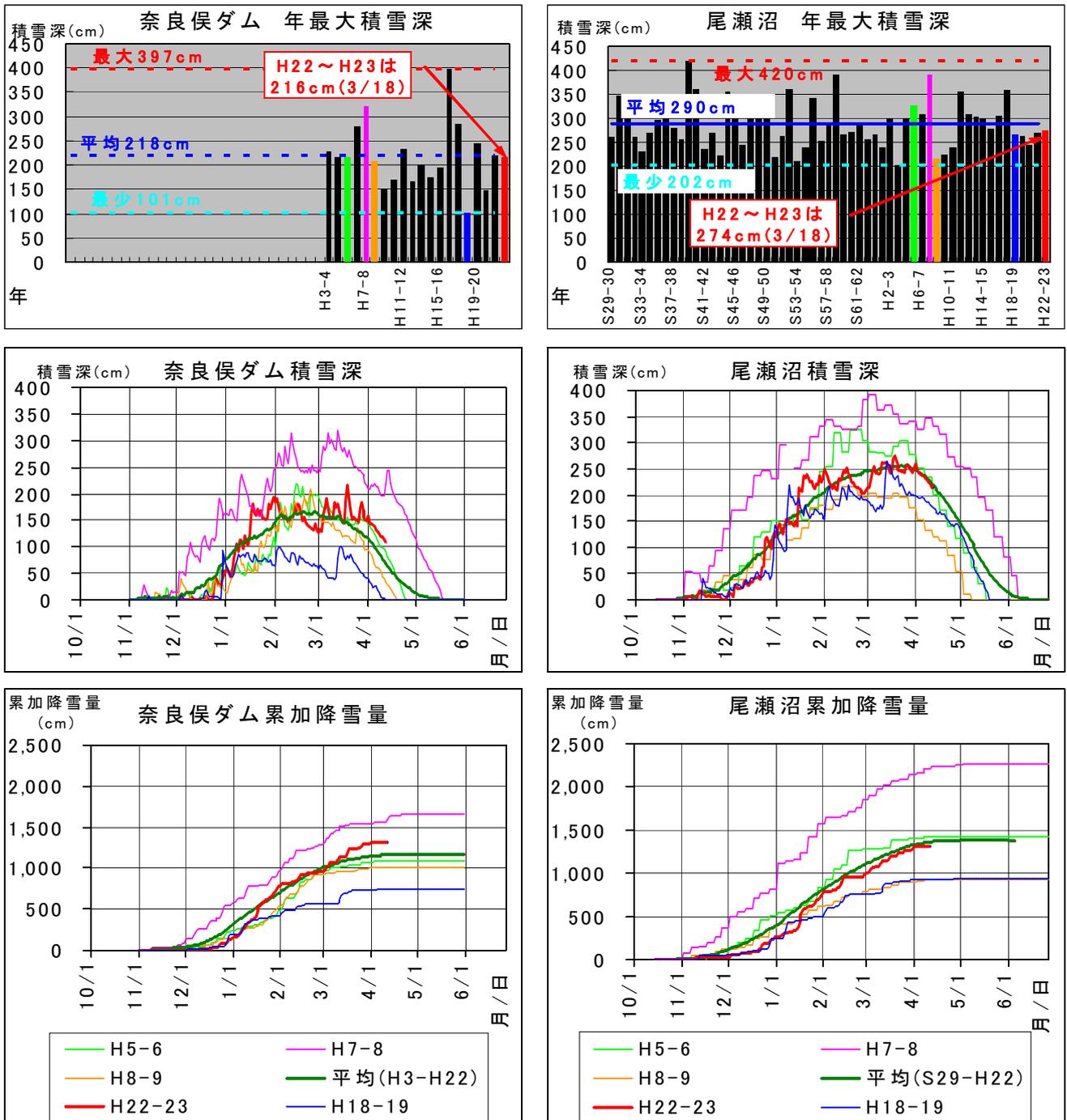
奈良俣ダム地点は1月中旬から平年を上回り2月後半に平年を下回ったものの、3月、4月と平年を上回る状況となっている。一方、尾瀬沼地点は、1月から2月にかけては、奈良俣ダム地点と同様の状況であったが3月以降はほぼ平年並みの状況となっている。

今期の最大積雪深は奈良俣ダム地点で216cm(3月18日)、尾瀬沼地点で274cm(3月18日)となっています。平成23年4月13日9時現在の奈良俣ダム地点の積雪深は103cm(平年の187%)、尾瀬沼地点では211cm(平年の103%)となっています。(表-2、図-2参照)

表-2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図

観測所名	時 点	日降雪量	積雪深	今期最大積雪	累加降雪量
奈良俣 ダム地点	平成23年4月13日9時現在	0cm	103cm	216cm(3月18日)	1,312cm
	H4~H22の4月第3半旬末平均値		55cm		1,174cm
尾瀬沼 地点	平成23年4月13日9時現在	0cm	211cm	274cm(3月18日)	1,305cm
	S30~H22の4月第3半旬末平均値		205cm		1,369cm

図-2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図



平成23年4月13日9時現在 ※過去のデータは半旬末の値

(4) 利根川上流ダム群の貯水状況

平成22年は、暖冬のため融雪の貯留に努め平年より早く4月16日に6ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、藪原、草木）は満水となりました。満水となった以降も低気圧や梅雨の影響から降水量が多かったため7月末まで夏期制限容量を維持することができました。その後、猛暑の影響もあって8月中旬から9月中旬にかけて補給となりました。また、1月以降は、月降水量としては、1月を除けば平年並みであったが、日々の降水量が1mm未満と少なかったこともあって、下流の水利用等の確保の為、補給を実施してきました。

平成23年4月13日0時現在の貯水量は、2億3,086万 m^3 （常時満水容量4億6,163万 m^3 に対して50%、平年の貯水量3億1,580万 m^3 に対して73%）と、平年を下回っています。

（表-3、図-5参照）

表-3 利根川上流8ダム貯水量

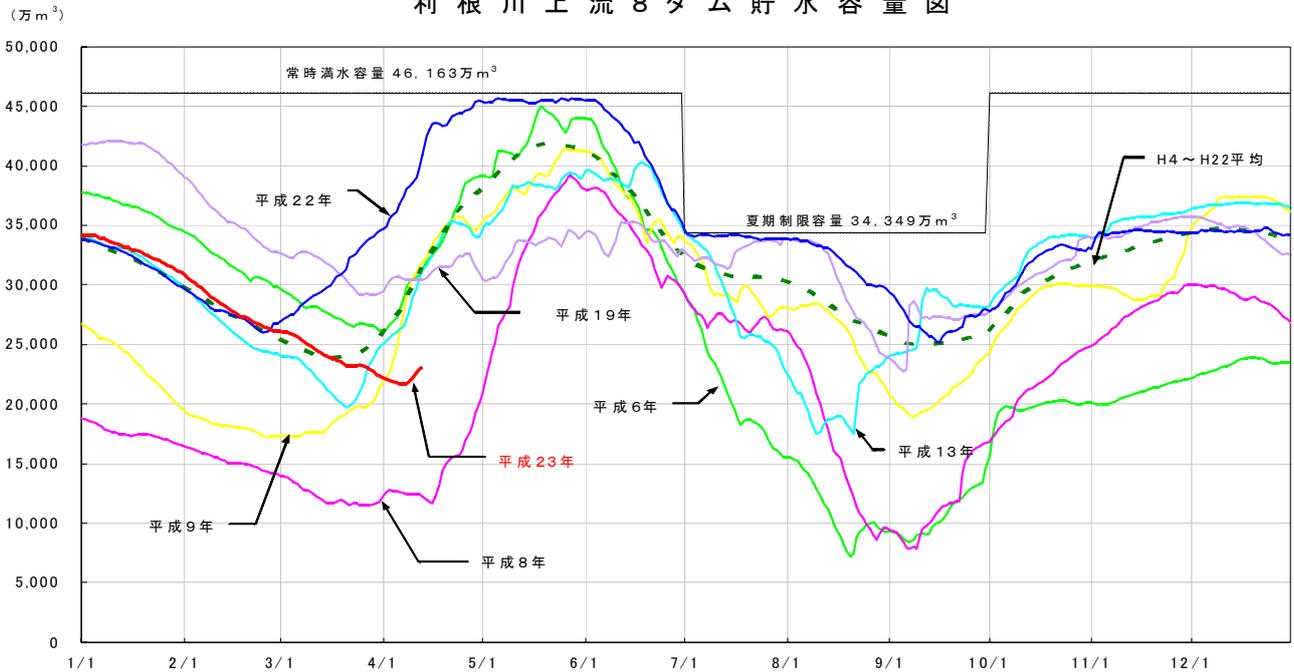
平成23年4月13日0時現在

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)
矢木沢ダム	11,550	3,853	33	-65	62
奈良俣ダム	8,500	5,885	69	-29	95
藤原ダム	3,101	1,626	52	6	79
相俣ダム	2,000	647	32	-21	43
藪原ダム	1,322	368	28	47	41
下久保ダム	12,000	5,192	43	2	59
草木ダム	5,050	4,782	95	-18	108
渡良瀬貯水池	2,640	733	28	-38	47
8ダム合計	46,163	23,086	50	-116	73

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図-5

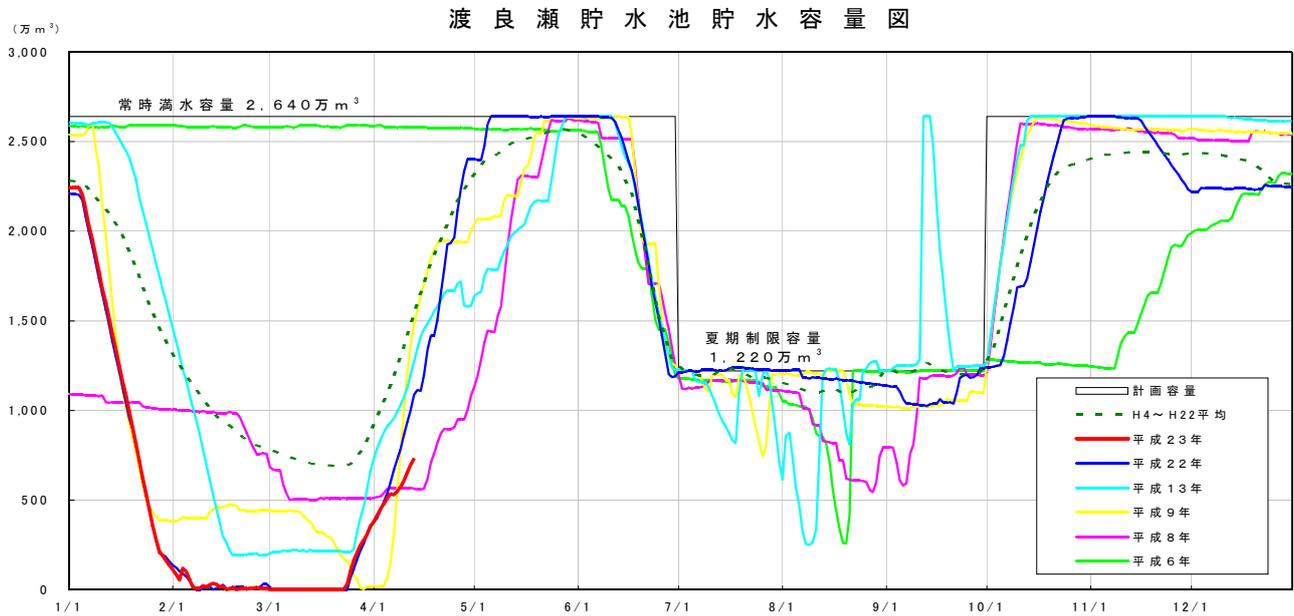
利根川上流8ダム貯水容量図



(5) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善等のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。今年も1月4日より補給も兼ねつつ水位を下げ干し上げを実施しました。平成23年4月13日0時現在の貯水量は、733万m³、常時満水容量2,640万m³に対して28%、平年の貯水量1,545万m³に対して47%と平年を下回っています。(図-6参照)

図-6



2) 鬼怒川水系

(1) 降水量

平成22年の鬼怒川佐貫上流域平均降水量は、1月は月間降水量が30mm（平年49mm）と平年に比べ小雨でしたが、2～3月は、平年並みの降雨となっている。5月以降は、8月を除き平年を上回る降水量で特に12月においては、平年の4倍以上の降水量となりました。

平成23年に入り、1月は平年を上回りましたが、2月、3月は平年を下回りました。1月から3月までの降水量は144mmと平年値（174mm）の約83%となっています。

4月の月降水量は、13日までで2mmとなっています。（図-7、表-4参照）

図-7

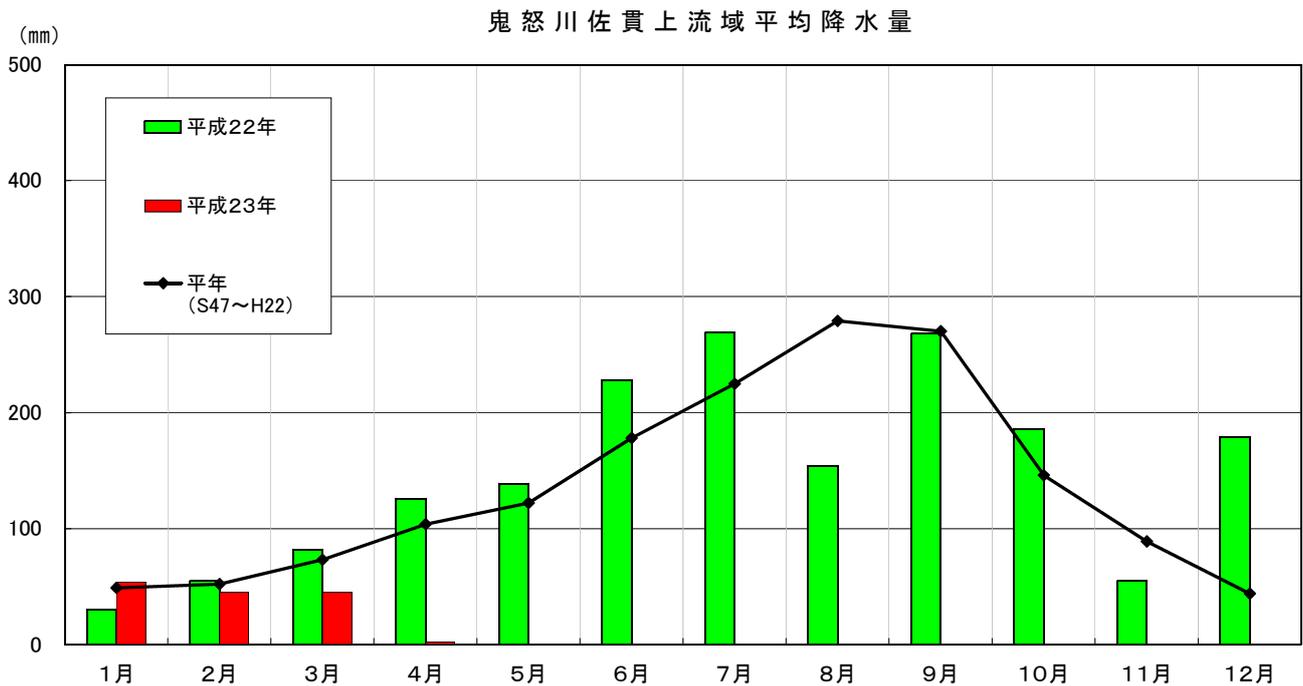


表-4 鬼怒川佐貫上流域平均降水量

単位(mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980
平成22年	30	55	82	126	139	228	269	154	268	186	55	179	1,771
平年(S47-H22)	49	52	73	104	122	178	225	279	270	146	89	44	1,631
平成23年	54	45	45	2									146
平年比(%)	110	87	62	2									9

平成23年4月12日まで

※. 鬼怒川佐貫上流域面積 940km²

(2) 鬼怒川上流ダム群の貯水状況

平成22年の鬼怒川上流3ダムの貯水量は、3月以降ほぼ平年並の貯水量で推移し、5月2日に貯水量1億6,768万 m^3 、常時満水容量に対する貯水率93%（平年比111%）に達しました。その後も低気圧や梅雨の影響から降水量が多かったため、7月末の時点でほぼ夏期制限容量を維持することができました。

12月には平年の4倍以上の降水量があったことから、貯水量も平年の1.2倍の貯水量となっています。

平成23年に入って、平年を下回る降水量であったことから貯水量は減少したものの、3月下旬からの融雪により貯水量の回復に努め、平成23年4月13日0時現在の貯水量は、1億5,330万 m^3 （常時満水容量1億8,034万 m^3 に対して85%、平年の貯水量1億5,812万 m^3 に対して97%）と平年を下回っています。

（表-5、図-8参照）

表-5

鬼怒川上流3ダム貯水量

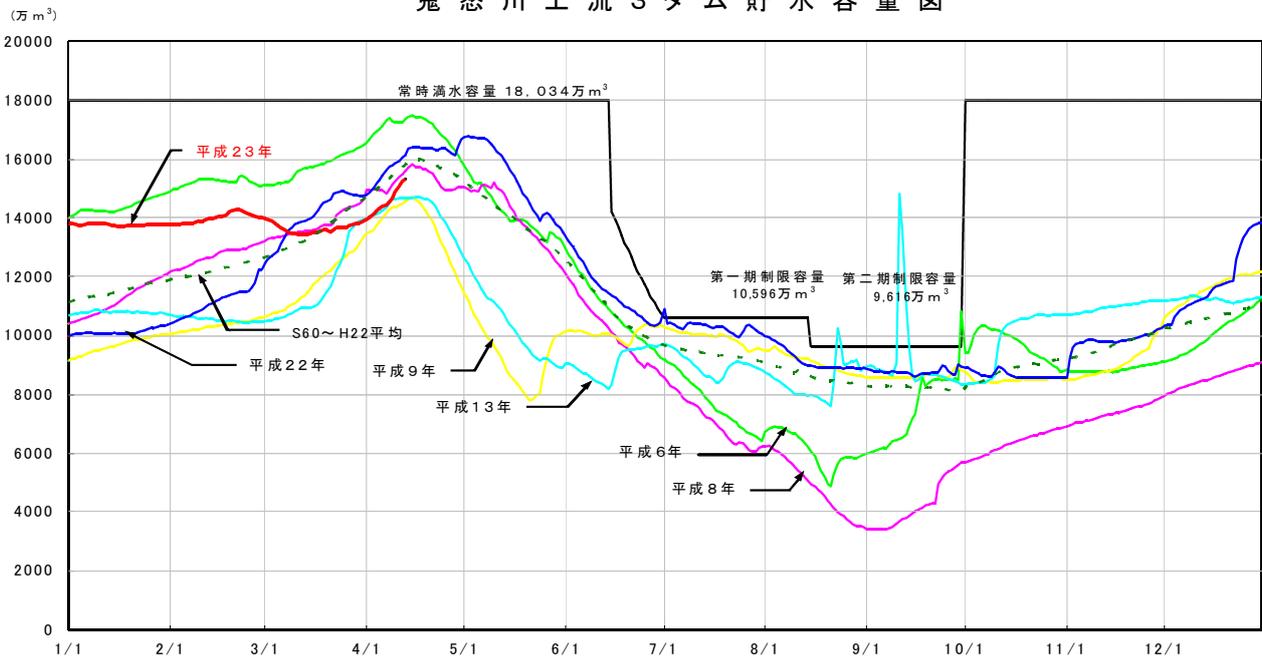
平成23年4月13日0時現在

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)	適用
五十里ダム	3,123	2,868	92	-119	102	
川俣ダム	7,311	5,703	78	28	80	
川治ダム	7,600	6,759	89	-3	115	
3ダム合計	18,034	15,330	85	-94	97	

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図-8

鬼怒川上流3ダム貯水容量図



3) 荒川水系

(1) 降水量

平成22年の荒川秋ヶ瀬上流域の降水量は、1月・6月・8月を除き平年を上回りましたが、1月においては、わずか4mm（平年比11%）と極端に少ない降水量であり、また8月においても103mm（平年比47%）と平年の半分以下の降水量となっています。

平成23年1月の降水量は昨年より少なく1mmとなっており、統計期間で最も少ない降水量となっています。1月から3月の累加降水量は108mm（平年1月～3月までの累加143mm）と平年の約76%となっています。

4月の降水量は、13日までで2mmとなっています。

（図-9、表-6参照）

図-9

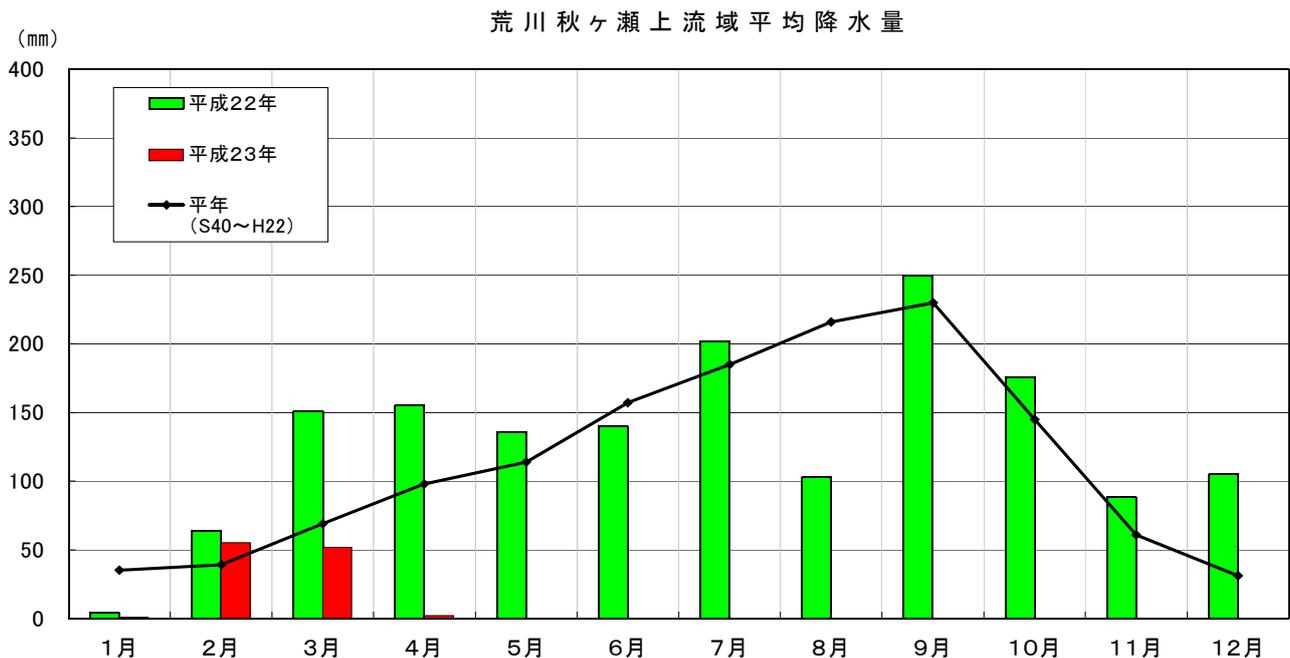


表-6 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657
平成22年	4	64	151	155	136	140	202	103	250	176	88	105	1,574
平年 (S40-H22)	35	39	69	98	114	157	185	216	230	145	61	31	1,380
平成23年	1	55	52	2									110
平年比 (%)	3	141	75	2									8

平成23年4月12日まで

※. 荒川秋ヶ瀬上流域面積 2,021km²

(2) 荒川ダム群の貯水状況

平成22年の荒川ダム群（二瀬ダム、滝沢ダム、浦山ダム、荒川調節池）は、6月3日に貯水量8,051万m³、常時満水容量に対する貯水率56%に達しました。その後概ね平年並の降水量だったことから貯水量の低減を抑え、7月末の時点で夏期制限容量を維持することができました。

11月以降は、平年を上回る降水量であったことから貯留に努め、平成23年4月13日0時現在の貯水量は、9,887万m³（常時満水容量14,420万m³に対して69%、平年の貯水量6,460万m³に対して153%）と平年を上回っています。

（表-7、図-10参照）

表-7 荒川4ダム貯水量

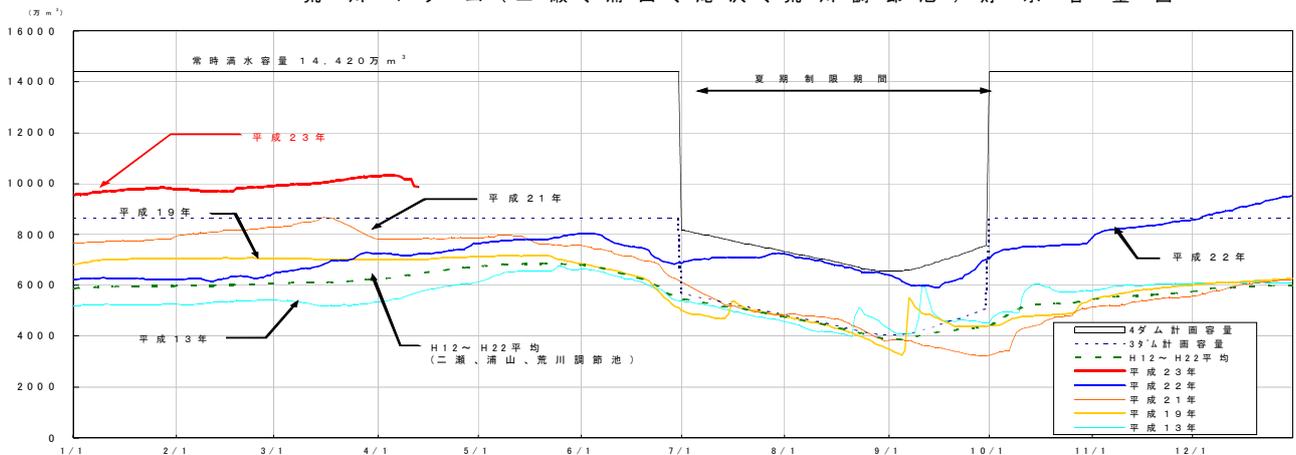
平成23年4月13日0時現在

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	前日補給量 (万m ³ /日)	平年比 (%)
二瀬ダム	2,000	1,724	86	0	120
滝沢ダム	5,800	3,173	55	2	—
浦山ダム	5,600	4,258	76	10	105
荒川貯水池	1,020	732	72	0	75
4ダム合計	14,420	9,887	69	12	153

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）
4. 平年比は、過去の平均貯水量に対する割合。4ダム合計の平年比は、二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池の平年貯水量の合計に対する割合。

図-10

荒川4ダム（二瀬、浦山、滝沢、荒川調節池）貯水容量図



4) 多摩川水系

(1) 降水量

平成22年の小河内ダム上流域の年間降水量は、1,740mm(平年比108%)となっています。

平成23年に入り、1月の降水量は2mm(平年比4%)と平年を大きく下回りました。2月は平年を上回ったものの3月は平年を下回る降水量となっています。

4月までの累加降水量は、13日までで151mmとなっています。(図-11、表-8参照)

図-11

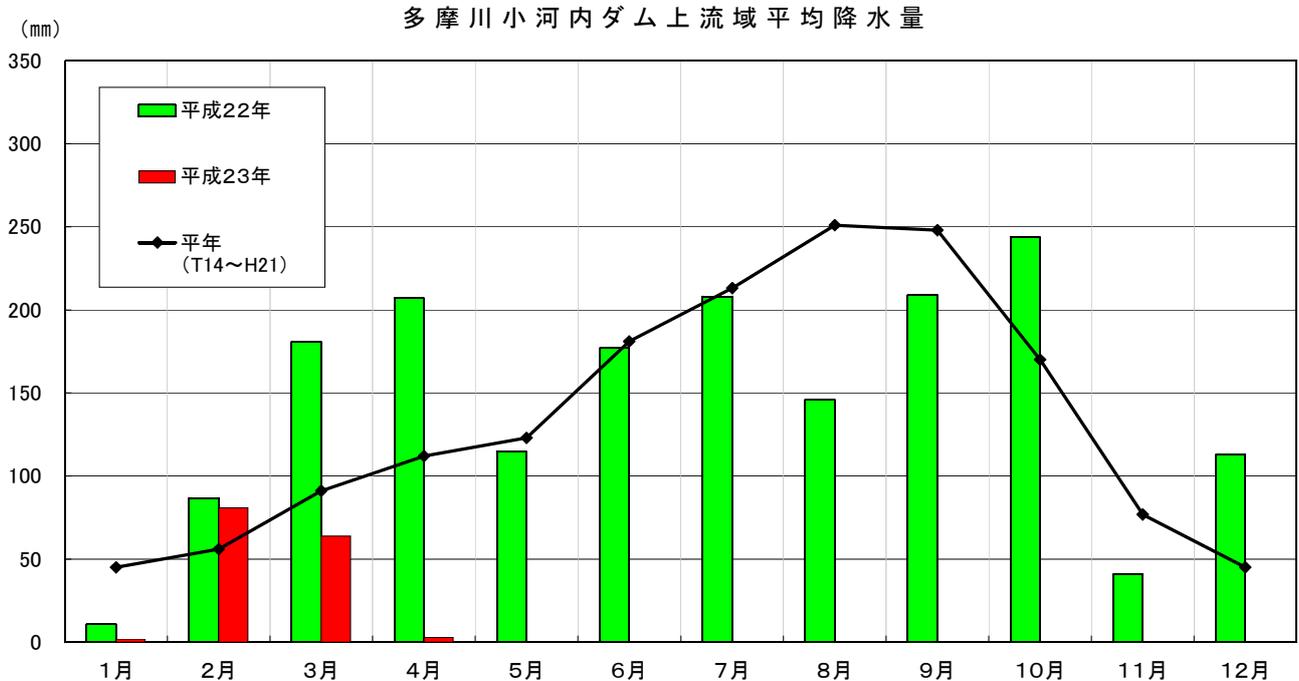


表-8 多摩川小河内ダム上流域降水量

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成22年	11	87	181	207	115	177	208	146	209	244	41	113	1,740
平年 (T14-H22)	45	56	91	112	123	181	213	251	248	170	77	45	1,612
平成23年	2	81	64	3									151
平年比 (%)	4	145	71	3									

平成23年4月12日まで

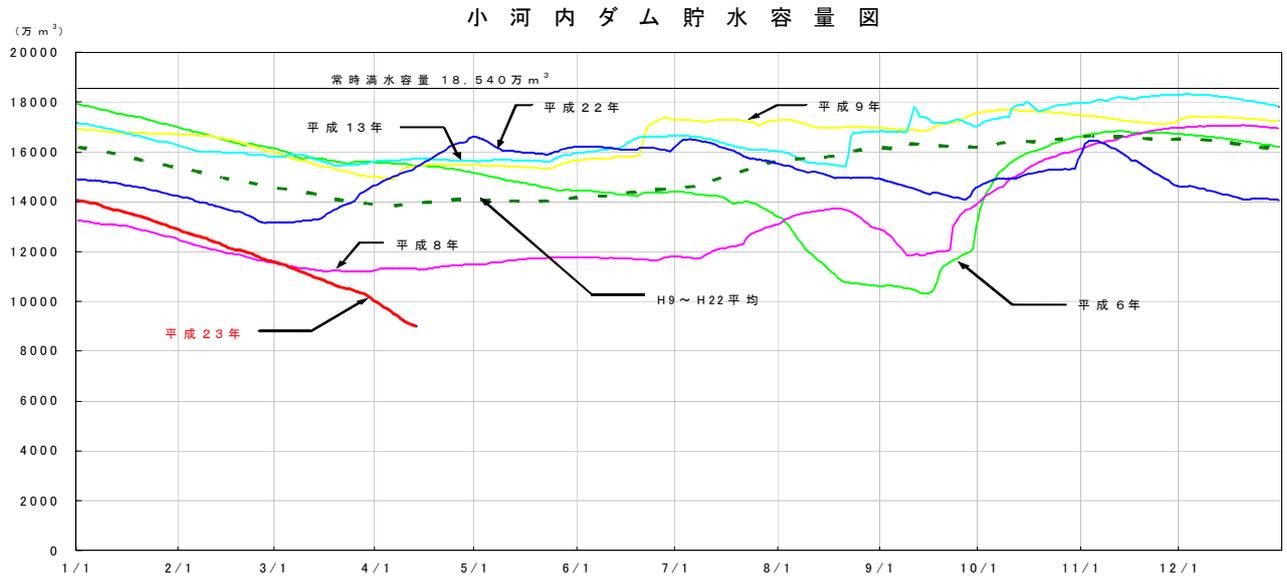
※. 端数処理の関係で、各月の和と合計値は一致しないことがあります。

※. 小河内上流域面積 262km²

(2) 小内ダム貯水状況

4月13日7時現在の貯水量は、9,016万 m^3 、貯水率49%、平年比64%で平年を大きく下回ってます。(図-12参照)

図-12



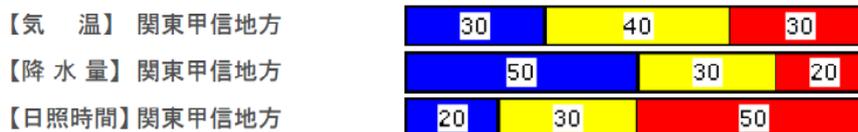
2. 今後の見通し及び対策（案）

（1）見通し

- ①. 平成23年4月8日発表の気象庁の1か月予報によると、4月9日から5月8日の関東甲信地方の降水量については、「少ない」となっており、3月24日発表の気象庁の3か月予報によると、降水量は、5月、6月は「平年並」となっています。

1か月予報（平成23年4月8日発表）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

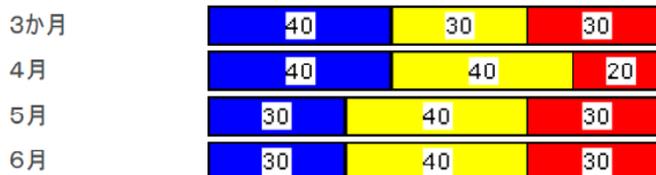


凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3か月予報（平成23年3月24日発表）

【降水量】

[関東甲信地方]



凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ②. 利根川上流5ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、菌原）は、毎年4月から5月にかけて、融雪水により貯水量を大きく回復する時期となっており、例年では5月の中旬にほぼ満水となります。今年は例年に比べ、気温が低かったこともあり、現在融雪水の貯留に努めているところですが、積雪深等がほぼ平年並みであることから、5ダムにおいては満水まで回復が予想されます。

しかし、今後は水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想定されます。

- ③. 鬼怒川上流3ダムの貯水量はほぼ平年並みの貯水量となっており、今後下流の農業用水等水需要に対して必要な水量を確保するためダムからの補給を行っていきませんが、降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

（2）対 策（案）

- ① [利根川水系における上流ダム群の貯水量の確保]

今後、本年の利根川上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

また、上流ダム群の貯水量の状況や積雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

- ② [利根川水系渇水対策連絡協議会の取り組み]

利根川渇水対策連絡協議会としては、首都圏の水需要をかんがみ、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

3. 非洪水期における工事制限水位等について

H23. 4月現在

工事主体	ダム名	工事名	工事概要等	工事期間											
				平成23年						平成24年					
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利根川ダム統管	相俣ダム	相俣ダム湖法面対策工事	ラス張、法面補修 (H22年度契約不調によりH23年度へ繰り越し)												
		制限貯水位 EL550.0m 制限期間 平成23年10月1日から平成23年12月26日													
利根川ダム統管	蕨原ダム	蕨原ダムガントリークレーンワイヤーロープ更新工事	コンジット予備ゲートのワイヤーロープ更新及び 그리스配管ルートの変更												
		①制限貯水位 EL549.5m 制限期間 平成23年10月1日から平成23年11月30日 ②制限貯水位 EL563.5m 制限期間 平成23年12月1日から平成23年12月28日													
鬼怒川ダム統管	川俣ダム	クレストゲート改修工事	クレストゲート改修工事に伴う台船発着場設置工事及びクレストゲート改修工事を実施する。												
		制限貯水位 EL965.0m~970.0m 制限期間 平成22年5月20日から平成24年9月30日													
水資源機構	矢木沢ダム	矢木沢ダム放流設備扉体及び戸当り塗替塗装工事	矢木沢ダム放流設備扉体及び戸当り塗替塗装												
		①制限貯水位 EL830.0m 制限期間 平成23年10月1日から平成23年10月20日 ②制限貯水位 EL842.0m 制限期間 平成23年10月20日から平成23年12月10日													
	奈良俣ダム放流設備整備工事	表面取水ゲートの軸受けブッシュの取替及び主ローラーの整備													
草木ダム	草木ダム	①草木ダム水位変動域緑化基盤工事	貯水位変動域(平常時最高貯水位~洪水時準備水位)の法面緑化工事												
		②草木貯砂ダム堆積土砂撤去工事	草木貯砂ダム内の堆積土砂撤去工事												
		①制限貯水位 EL437.0m 制限期間 平成23年8月1日から平成23年8月31日 ②制限貯水位 EL451.0m 制限期間 平成23年10月1日から平成23年12月31日													